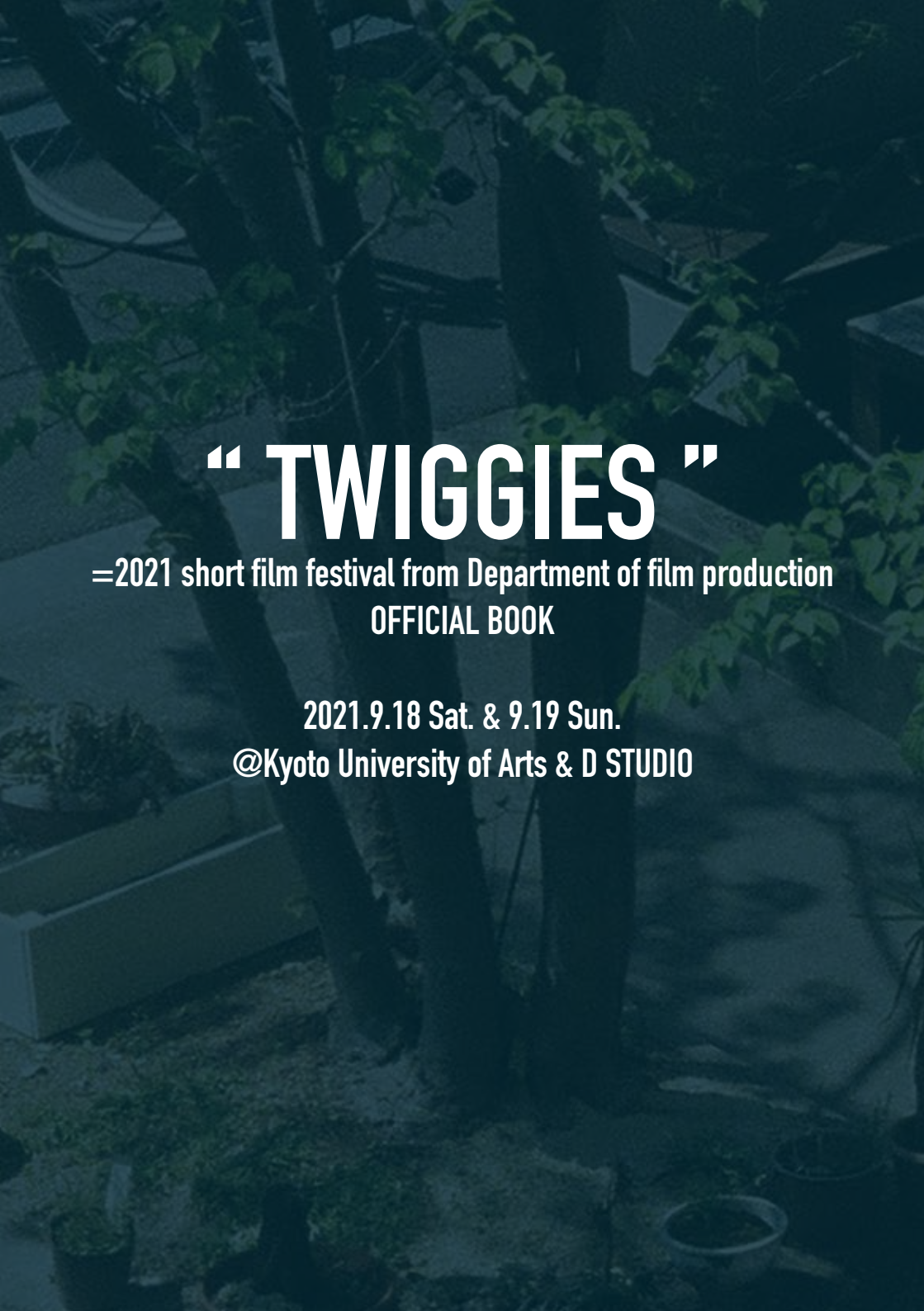


“ TWIGGIES ”

=2021 short film festival from Department of film production

OFFICIAL BOOK

2021.9.18 Sat. & 9.19 Sun.

@Kyoto University of Arts & D STUDIO

はじめに

この度は、学生作品展 映画学科上映・展示イベント
「TWIGGIES」にご来場いただき、誠にありがとうございます。

オフライン・オンラインいずれのご来場にしても、
このような折に作品がみなさまに触れていただけること、
映画学科一同とても嬉しく感じています。
このパンフレットではそんな作品たちについて、
さらに詳しく知っていただければ幸いです。

-目次-

P2 …『してぃーぼーいず』『170mm53db』
P3 …『浮かぶかたつむり』『あいいろ』
P4 …『距離感』『トレンディはスマートじゃない?!』
P5 …『IN』『境域』
P6 …『よごれ』『水魚の交わり』
P7 …『せなかあわせ』『故郷』
P8 …『まばたき』『君が散るころに』
P9 …『喫茶変』『焦点』
P10 …『Ad lib.』『黄咽』
P11 … シナリオ抜粋集
P12 … シナリオ抜粋集
P13 … シナリオ抜粋集
P14 … 映画学科について

『してぃーぼーいず』(24分)　©2020年度短編制作Aゼミ

◉あらすじ

社会人5年目のイツキはただ時間が過ぎていくだけの
日々を送っている。母との電話の最中、大学時代の記憶
がイツキの脳裏によぎる。
かけがえのない親友たちとアトリエで過ごした夏。
1つの音から結ばれたイツキの記憶は誰もが通過した
"若者であった自分たち"を鮮明に写す。

◉コメント

新型コロナウィルスに奪われた日常と時間。
見てくださった方の"忘れたくない時間"を思い出すきっかけになれれば嬉しいです。

監督　和泉沙里

他愛もない日常が、必要な時間だったと思う瞬間がくる。
社会に出たときに、学生時代を思い出して欲しいと考え、してぃーぼーいずを書きました。

脚本　平田えみり

『170mm53db』(19分)　©2020年度短編制作Aゼミ

◉あらすじ

田中海人(24)。
新型コロナウイルスの影響で、自宅マンションからリモート出社する毎日。
可愛い後輩、告白予定の幼馴染、会社での評判だってそれなりに良い。
でもそれは一生続くわけではないらしい。
行き場のない怒りや不安を感じた時、騒音が音楽に聞こえたら。
僕らはまた前を向けるだろうか。

◉コメント

いろんな壁が存在する世界で、
言語や人種という壁を作っているのは私たちです。
見方を変えれば、それから生まれる偏見や差別という
壁を壊せるのも私たちです。
この物語はそんな「壁の存在」に着目した映画です。
この映画が、「壁の向こう」から SNSよりも程近い、
誰かを想うきっかけになれば幸いです。

監督　髙田彩加

『浮かぶかたつむり』(19分)　©2020年度短編制作Bゼミ

◉あらすじ

大学一回生の塩田結依は時の流れるままに
日々の生活を送っていた。
ある日、ふと帰りに買った「写ルンです」を手に取る。
思い返されたのは、高校時代に近い存在であった
一ノ瀬雫の姿と守れなかった「約束」。
現在の自分とあの頃の自分。親友との関係性。
記憶と感情が繊細に織りなす青い物語。

◉コメント

水の中に潜った時、イヤホンを耳にはめた時、私という一人だけの空間があるように感じます。
「水」と「イヤホン」をキーポイントとし、主人公 結依 と高校時代の友人 雫、ふたりのお互いに
対する思いや重みを比喩表現を用いて表現しました。
目の前の世界が人生の全てにさえ思えた思春期の、葛藤、孤独、心の距離をふたりの世界を
通して感じていただけたらと思います。
この映画が誰かを思い返すきっかけに、誰かの居場所になれたら幸いです。

監督　安本未玖

『あいいろ』(22分)　©2020年度短編制作Cゼミ

◉あらすじ

女遊びが絶えない、タナカ。
何度も浮気されても離れられない、さっちゃん。
そんな二人をいつも見守るゴマ。

"自分に正直に生きよう"とする3人。
タナカの愛していたのは……

◉コメント

ちょうど1年前に撮影をした映画です。
この、形にたどり着くまで短いようで長かった気がします。
不器用で傷ついたり傷つけられでも生きていくタナカ、
さっちゃん、ゴマの3人を観て何かを感じていただけたら幸いです。
ぜひ、お楽しみください。

監督　玉井琴望

『距離感』(18分)　©2020年度短編制作Cゼミ

◉あらすじ

新型コロナウイルスが流行している中、
自粛期間を経て久しぶりに再会した恋人同士の石崎と宮下。
いつもと様子が違う宮下は石崎にとある提案をするが…
離れていても繋がるこの時代で二人が見つけた「繋がり」とは。

◉コメント

制作中に多くのトラブルがあり、正直何度も不安になりましたが、多くの人の支えのおかげで一つの作品として完成させることができました！
「繋がり」を見失いそうになるこのご時世だからこそ、多くの人に観て欲しい作品です

監督　福島麗乃

『トレンディはスマートじゃない?!』(25分)
©2020年度短編制作Dゼミ

◉コメント

現代を生きる私たちは、インターネット・SNSを通じて
いつ何時でも沢山の人と繋がることが出来ます。
ですがその便利なツールがあるからこそ、
「いつでも繋がれる」という余裕が生まれたり、
どこか人と人との間に距離が生まれているように日々感じていました。
ここでふと、1980年代の日本に遡り考えてみました。
携帯電話があまり普及していなかった当時、物事を
直接伝え合うことで人と人とは繋がっており、
現代よりも距離感が近かったのではないかと思われます。
私は、当時の人が持ち合わせた「繋がる力」こそ、
コミュニケーションにおいて重要な要素であるように感じました。
新型コロナウイルスの流行から、コミュニケーションをとるために
より一層インターネットが必要不可欠になった
今だからこそ、もっと直接的に心を繋げあおうとする気持ちを
重要視するべきなのではないかと、強く感じました。
皆さまそれぞれが握る人との繋がりや距離感、
それらに改めて、注目してみる。
この作品がそのような小さなきっかけになれば幸いです。

監督　谷口瑠璃

◉あらすじ

80年代を生きる男女のもとへ、
突如スマートフォンがタイムスリップする。

スマートフォンが2人の関係性に及ぼす影響とは…?!

コミュニケーションをとるためインターネットが
無くてはならない時代だからこそ、伝えたい物語。

『IN』(5分)　@自主制作

◉あらすじ

部屋でくつろぐ2人の男女。
やがて男が怪しげな行動を取り始めて、、、

◉コメント

コロナ禍の中、新しい表現が出来ないか模索しながら制作しました。
この機会に是非観て頂けますと幸いです。

監督　岡田尚樹

『境域』(15分)　©2021年度短編制作Aゼミ

◉あらすじ

知能、容姿ともに人間同等のアンドロイドが存在する世界。
夫は妻が部屋に籠り仕事をするようになってからの
様子の変化に違和感を抱き始める。
ある日、夫はその違和感を妻に打ち明けるが彼女は真剣に答えない。
彼女は自分が知っている人間か、
それとも…。

◉コメント

先ずはこの作品が完成出来たこと、そして見て頂けるということに感謝の気持ちで一杯です。
今年は経験ゼロのスタートに加えて、コロナ禍という制約の中で感染対策もしないといけないイレギュラーな条件下でのゼミ制作でした。
しかし、多くの方々の多大なるご協力とご指導の下にこうして映画を作り上げることが出来ました。
この半年の制作で私たちは多くのことを得ることができたと感じています。
この作品の完成に向けてご協力をして頂いた全ての方々に感謝致します。
このような状況下で私は今撮らなければならないと感じた企画を映画にしました。この作品は私が抱いていた、人工知能や人型アンドロイドと人間が共生可能かという疑問から来ています。
観客の方々には、この作品を見た後に是非何かを感じて頂けたら幸いです。

企画・脚本・監督　三輪拓未

『よごれ』(12分)　©2021年度短編制作Aゼミ

◉あらすじ

『無料で靴磨きをする代わりに僕の夢を聞いてほしいんです』と言って靴磨きをしている青年優輝。無料とうたってはいるが、彼が靴を磨いた人は、思わず彼にお金を支払ってしまう。靴磨きを通して交わす言葉によって変化していく優輝。嘘の中で生きている優輝が、その嘘が誰かを幸せにしていると知ったとき、何を思うのだろう。

◉コメント

人を騙して何が悪いのか。嘘とは何か。そして真実とは。
優輝とはいったい何者なのか。
不思議な力を持つ「言葉」による人の心の移ろいを通じて、
真実が正義で、嘘が不正義なのかということを問いかけたい。

監督　立花遼

『水魚の交わり』(15分)　©2021年度短編制作Aゼミ

◉あらすじ

中学三年生の魚住と水城。
二人は共通点が多く、登下校を共にしている。
いつもと変わらない学校での日々。
ある日、魚住は水城の引っ越しを人づてに聞いてしまう。
魚住はもどかしさを抱えたまま、水城は去ってしまった。
水城の存在を追いかけた魚住が辿り着いた先とは…。

◉コメント

この作品を撮れたこと、観ていただけることにとても感謝しています。
『水魚の交わり』というたった一つの言葉を知ったことで生まれた物語。
水と魚の間にあるものとは一体なんなのか。制作期間中、魚住と一緒に追い求め、もがき続けていました。
ふたりの間に流れる時間を見つめた先にあるもの。それは私たちの心のなかにもきっと存在していると、大学の帰り道にY字路を歩きながら今では確信を持ってそう思えるのです。

監督　村田陽奈

『せなかあわせ』(14分)　©2021年度短編制作Aゼミ

◉あらすじ

12歳の男女が背中合わせになって座っている。
ふたりは好きな本や趣味、考え方や見ている景色も違う。
遠いようで近く、近いようで遠い。
だが、お互いにとってかけがえのない存在。
ふたりは本にまみれた小さな空間でポツリポツリと言葉をこぼしていく。

◉コメント

おとなになっていくことは
どうにも止められそうにないし
月にも星にも簡単には行けないみたい

わたしの世界はわたしのもの
きみの世界はきみのもの
なにもあげられないけど、そばにいようよ

監督　林ひより

『故郷』(37分)　©2021年度短編制作Bゼミ

◉企画意図

田舎に住む家族の日常を綴った
ドキュメンタリー映画。
監督の家族にカメラを渡し、
遠隔で指示を出しながら撮影した。
普通のドキュメンタリー映画とは
違ったアプローチができないかと思案して
最終的に編集者を
三人に増やすこととなった。
同じ素材映像から三本の短編を作り、
それを合わせて一本の作品に仕上げた。
三者それぞれの観点から
同じ素材映像でも異なった印象を与え、
全編通してみることで
映画の全体図が見えてくるように
意識し制作した。

◉コメント

この作品は短編ゼミの中では珍しくドキュメンタリー作品となっています。
フィクション映画では描けないドキュメンタリーでしかできないものは何かと試行錯誤を続け完成しました。
観客の皆さんにフィクション映画とは違った印象も抱いてもらえれば幸いです。

監督　仲田絢音

『まばたき』(17分)　©2021年度短編制作Cゼミ

◉あらすじ

幼馴染であるひかりと美空。中学では常に一緒で親友だった。
同じ高校に進学する二人だが、徐々に美空はひかりと関わらないようになる。
崩れていく二人の関係。親友に戻れる日は来るのか。
高校生の心の葛藤を描いた物語である。

◉コメント

人には良いところもあれば悪いところもある。
光があれば影がある。
そんな人間らしいところを見てほしい、
人間の美しさを感じてほしい、
と思ってこの作品を撮りました。
私はこの作品を見ると笑ってしまうことがあります。
人をダイレクトに感じる作品だからかもしれません。
制作する側も人です。観てくださるお客様も人です。
みんなで『人』を感じましょう!
最後にこの作品に関わってくださったすべての人に
「ありがとうございました!」と伝えさせてください。
私たち山﨑組のメンバー一同はこの短編映画制作によって
大きく成長することができました。
本当にありがとうございました。
『まばたき』を観てくださるみなさま、、お楽しみください!
この作品に興味を持ってくださり
ありがとうございます!

監督　山﨑龍吾

『君が散るころに』(26分)　©2021年度短編制作Cゼミ

◉あらすじ

結婚記念日1年を迎えた新婚夫婦、大輝と沙紀。
幸せな家庭を築く二人にある日不幸が訪れる。
交通事故で沙紀の意識が不明。
命は落とさずも植物状態になってしまう。
それをきっかけに大輝はほぼ引きこもりの状態になってしまう。
大切な人が急に目の前から消えた時、大輝はどう立ち直るのか。

◉コメント

物事には必ず「終わり」があります。
でもそれは同時に何かの「始まり」を意味します。
その中で自分自身にできる事を
この映画で見つけてもらえると幸いです。

大輝役　大原輝明

今、大切な人と一緒に居られることが当たり前ではなく、
いつ無くなってもおかしくない脆いものだということに
改めて気付ける作品になっていると思います。
この映画が大切な人への気持ちを今伝える1歩を
踏み出す後押しに少しでもなれば幸いです。

沙紀役　西山あずさ

『喫茶変』(12分)　©2021年度短編制作Cゼミ

◉あらすじ

賭け事ばかりで錆び付いたような
毎日を送っている
大井祥太は、高校時代からの仲間で
唯一の友人・佐々木祐介を
行きつけのカフェで待つ間、
そのカフェの店員・麻里に
恋をしてしまう―。

◉コメント

「あの頃に戻りたい」と青春時代を振り返ったり「あの時やり残した事がある」と悔恨して
『過去に戻りたい、若返りたい』と思ったりする事は誰にでもあると思います。
もちろん、外見的に若返ったりタイムスリップする事は今のところできません。
しかし、『内面的に若返る』事は可能です。
不完全燃焼で終わった青春時代にリベンジする機会はあります。
過去に戻る事はできなくても過去の続きを今から始める事はできます。
そんなきっかけの一つの例を、この映画を通して様々な人に伝えたいと思います。

監督　直井陽

『焦点』(27分)　©2021年度短編制作Dゼミ

◉あらすじ

高校を卒業した春休み。愛子の元へ突如、幼馴染の陸が姿を現す。
傷を消した"愛子"と残した"陸"
6年間の隔絶を経て、2人は互いの孤独に触れる。

◉コメント

愛子と陸が発する言葉ひとつひとつがとても好きで、
二人の空気感を感じて頂きたいです。

衣装・陸役　二橋陽香

この作品をまなざしてくださる方の数だけ物語があって、
それらは答えのないところで等しく美しいです。
空間の中、自由に触れられますように。

企画・愛子役　長谷川七虹

「孤独」は視覚でみれるものではなく、
一人一人の心の中に必ずあるものです。
自分の中の「孤独」を感じながら、探しながら、
この作品を観ていただけたら幸いです。

脚本・録音　新井志保乃

これから続くであろう長い映画人生を
『焦点』で始められた事、面白く思います。
『焦点』を愛して『焦点』を殺していきます。

監督・編集　遠藤愛海

『Ad lib.』(24分)　©2021年度短編制作Dゼミ

◉あらすじ

高瀬律はある日、家に居候している幼なじみの
宇佐見健介からヘッドホンを借りる。
それは周りの音がいつもと違って楽しく聞こえる
不思議なヘッドホンだった。
たちまち律はそんなヘッドホンから聞こえる
楽しい音の虜になった。
音の世界に夢中になるうちに、宇佐見や周りの
ことが見えなくなっていく・・・

◉コメント

この映画は、音のギミックや律と宇佐見のドラマを楽しむと同時に、
観てくださった方に体感を与えることを目指して作ったため、
体感をしていただきたいです。
また、変化させるということは逆に、
変化前の存在を明らかにすることだと思います。
この映画を通じて、日常に溢れる音を再認識していただけると幸いです。

オトノプロジェクト　曽根笙

『黄咽』(シナリオ展示)　©2021年度短編制作Dゼミ

◉あらすじ

乳児期に両親が亡くなり、叔母に育てられてきた、色弱を持っている和泉。
物語は色を見分けられない彼女が、母の命日に供花を買い間違えたことから始まる。
ある日叔母の自殺に伴い、彼女は唯一の家族を失った。
受け入れられない和泉は叔母の住処に戻り、遺品に隠されていた叔母の過去を知った。
消え去りつつも残存している叔母の時間を和泉が受け継いで生きていく話。

◉コメント

人は毎日を積み重ねて生きているため、誰にでも「過去」が出来ていきます。
人によってその「過去」がどれくらいの深さを持っているものなのかは、決してわからないですし、
それに触れたときにどう感じるかは人それぞれだと思います。
このお話を読んだあと、お話の行く末を手に取ったあなたにも考えてくれたら嬉しいです。

『170mm53db』▼

『してぃーぼーいず』▼

『あいいろ』▼

『浮かぶかたつむり』▼

『距離感』▼

『トレンディはスマートじゃない?!』▼

『IN』▼

『境域』▼

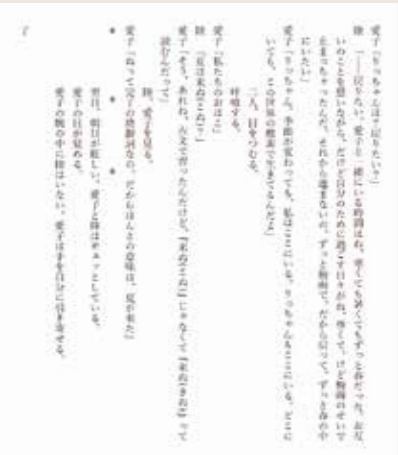
『よごれ』▼

『水魚の交わり』▼

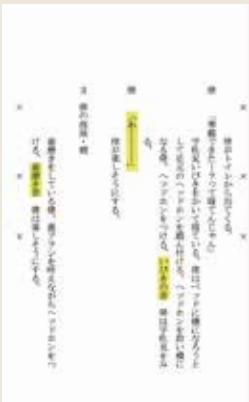
『まばたき』▼

『喫茶変』▼

『焦点』▼



『Ad lib.』▼



さいごに

改めまして、作品をご鑑賞いただき、
そしてこのパンフレットにも目を向けていただき誠にありがとうございます。

今後も引き続き、京都芸術大学 映画学科へのご支援のほど、
何卒よろしくお願いいたします。

また、本イベントのオンライン作品配信でも利用しており、
昨年開設した映画学科公式ポータルサイト「D STUDIO」
（https://www.takahara-dst.com）
についても、現在さまざまな展開を模索しております。
ぜひ暖かく見守っていただければと思います。

さらに、映画学科の活動のひとつである「北白川派」ですが、

第7弾『のさりの島』（山本起也監督）
が現在公開中、

第8弾『CHAIN／チェイン』（福岡芳穂監督）
の公開が11月に控えております。

こちらの活動も併せてご支援下さると幸いです。

THANK YOU FOR WATCHING.